

怒号飛び交う中「議決なかった」

「安保審議 続行を」

与野党議員がもみ合いにな
 る中で安全保障関連法案を可
 決した十七日の参院特別委員
 会に關し、東京大の醍醐聡名
 誉教授（会計学）らが、議決
 がなかったことの確認と審議
 続行を参院議長や特別委員長
 に申し入れようと、市民に賛
 同を呼び掛けている。二十日
 午前十時半ごろ集め始めたイ
 ンターネットの署名への賛同
 は二十一日午後八時までに五
 千筆を超えた。

十七日の参院特別委では、
 採決を阻止しようとする野党
 議員が鴻池祥肇委員長を取り
 囲み、与党議員と押しくらま
 んじゅう状態に。怒号が飛び
 交う中、安保法案の質疑打ち
 切り動議、それに続き法案が
 与党などの賛成多数で可決さ
 れたという取り扱いになっ
 ている。

しかし参院規則では、議長
 が採決する時は議題を宣告し
 た上で、賛成議員の起立で多
 数か少数かを認定し、結果を
 宣告すると規定されている。

東大名誉教授ら 署名呼び掛け

醍醐氏は「参院のインターネ
 ットやテレビの中継で見る限
 り、委員長の議事進行の声を
 委員が聞き取れる状況になか
 った。委員長も動議提出の声
 を聞き取り各委員の起立を確
 認できる状況になかった」と
 指摘。「未定稿の速記録でも
 『議場騒然、聴取不能』と記
 されるのみで、議事進行を促
 す委員長の発言も質疑打ち切
 り動議の提案も記されていない
 い」とする。

醍醐氏が十八日、参院事務
 局に「鴻池氏はどうして賛成
 多数を認定できたのか」など
 と問い合わせたところ、事務
 局の担当者は「委員長は見え
 たんだと思いますよ」などと
 回答したという。醍醐氏は
 「このような余りに理不尽な
 状況が既成事実としてまかり
 通るのを見過すことはでき
 ない」と話している。

申し入れは今国会会期末の
 二十七日までに提出する。会
 期末まで時間が切迫している
 ことから、賛同の署名はイン
 ターネットのみで受け付け
 る。締め切りは二十五日午前
 十時。署名のURLは、<http://netty.cocolog-nifty.com/blog/2015/09/post-6f5b.html> (西田義洋)